

平成23年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490400049	事業の開始年月日	平成20年8月1日
		指定年月日	平成20年8月1日
法人名	株式会社保健科学研究所		
事業所名	グループホーム本牧つばき園		
所在地	(231-0823) 横浜市中区本牧大里町24番地10号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成24年1月30日	評価結果 市町村受理日	平成24年4月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・緑豊かな自然に恵まれ、閑静な住宅街の中に平成20年8月1日に開所しました。いつでも皆様が明るく元気で過ごして頂ける様に、ご家族様・地域の皆様と共に触れ合いを大切にしています。 第二の我が家づくりを目指して頑張っています。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成24年2月13日	評価機関 評価決定日	平成24年4月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><事業所の優れている点> ◇家族への丁寧な報告 利用者の日常の様子や行事の写真などを、職員直筆の手紙と共に、毎月の事務的な連絡と一緒に家族に送付して喜ばれている。 ◇利用者の残存能力の維持 指先の利用では、食事ではスプーンでなくお箸を削除利用し、全員が下げ膳に協力し、クリスマスや節分などの行事食手作りにも参加して貰っている。その他、手先や運動能力の維持のために、地域ケアプラザの文化展に作品を出品したり、事業所駐車場でミニ運動会なども開催している。</p> <p><事業所が工夫している点> ◇運営推進会議の内容と方法 運営推進会議の年間日程とテーマを事前に決めて家族に送り、家族があらかじめ予定して出席できるように配慮し、運営推進会議終了後に家族会を開催したり、参加した地域包括支援センター職員を講師として勉強会も行っている。7家族12名の参加を得るにいたっている。 ◇インフルエンザ感染予防 インフルエンザ等感染症予防のため、利用者が毎日10時と15時のおやつの前に、年間を通して全員うがいを励行している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム本牧つばき園
ユニット名	りんどう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・地域に融合したホームを理念のひとつとし、朝の申し送りの時や会議の時に唱和し、理念の共有をおこなっている。	・法人理念「利用者の人格の尊重」「地域に融合したホーム」を各ユニットに掲示し、職員は常に理念の具現化に努めている。 ・「人格の尊重」の具現化の一つとして、いろいろな場面で利用者の意思を尊重した個別ケアを実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会に加入し、縁日や防災訓練などの行事に参加している。また、地域の商店街に買い物にでかけたり、近隣の中学生やボランティア様との交流を深めている。	・町内会に加入し、町内行事への参加や、お神輿の来訪などの交流がある。 ・利用者とともに近隣の八百屋やスーパーにおやつを買いに行き、図書館も利用している。 ・朗読ボランティアが定期的に来訪する。また地元中学生が夏休み中に介護体験学習で来訪し、ゲームや歌などで利用者とは交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の学生や、介護施設、病院のスタッフの方々が認知症の方々への理解を深めてくださっており、研修や見学に来園頂いている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・23年度の運営推進会議は4回おこなっており、年間の日程とテーマを決め意見交換が出来やすいように工夫をし、利用者様へのサービス提供にいかしている。	・次回は3月に開催予定である。会議には町内会長、地区連合会長、地域包括支援センター職員、家族が参加している。家族の参加を増やす目的で、テーマを認知症などに決めての家族勉強会も一緒に行っている。 ・参加者の意見により、従来実施していたクリスマス会を9月の敬老会に変更した例もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・区の担当者と連携をとり、運営状況や、利用者様の状態などをお便りにしお届けする機会を設けている。	”・中区役所には管理者が出掛け、利用者の生活状況の報告やアドバイスを受けていたりしている。利用者とともに行くこともあり、毎月のホーム便りも送付している。 ・市の介護保険担当課にもホーム便りを送付し、運営についての助言を受けることもある。”	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止マニュアルがいつでも閲覧出来る様になっている。研修プログラムにもくみこまれ、事業部全体として身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束はしない方針でマニュアルを整備し、年度初めに研修を行っているほか、毎月のユニット会議でも確認しあっている。 ・以前不審者の侵入があり、門は施錠しているが、玄関は日中開錠している。階段近くの2階ユニット入口は施錠しているが、事務室経由での出入りは可能である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が事業所内・外の研修に参加し、報告会をおこなっている。また、虐待と気付かない言葉使いについても毎月の職員会議にて見過ごしていないかを話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度を活用しているかたもおられ、職員も研修を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・重要事項説明書や契約書は利用者御家族様と読み合わせを行い、確認をしている。不安や疑問点について十分な説明をし、理解を頂いた上で署名・捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱を設置たり、面会時や運営推進会議を通じて意見を出しやすい状況を設けている。出された意見に対しては、どう対応したのかを次の運営推進会議で報告し、議事録として送付している。	・事業所からは毎月利用者の状況を写真と手紙で家族に報告している。 ・家族から出された意見は、ユニット会議で検討し、対応結果を運営推進会議で報告して、議事録を家族に送付している。職員の電話対応への意見に対し、マニュアルを作成し、接遇研修とユニット会議で徹底して改善した事例がある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・管理者は職員の意見や提案をいつでも聞く事のできる様にしており月に1度の会議の場での話し合いに反映している。	・日々の業務の中では、ユニットリーダーや管理者が職員の意見・提案をしやすい雰囲気作りや声掛けを心がけている。月1回のユニット会議では、職員の意見を聞き、提案された意見について話し合い、改善への検討をしている。 ・職員の提案により、薬袋を朝・昼・夜ごとに色分けし、誤薬防止の改善をした事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・代表者は職員の努力や実績、勤務状況を把握しており、職員環境・条件を働き易いように努めている。（正月特別手当等。）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・OJTにより、一人ひとりの力量にあった職員の研修や指導を介護事業部全体として行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・近隣のグループホームとの交換実習を行ったり介護事業部4つの施設との勉強会を含め、サービスの向上への取組みをしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・面接の場面で入居相談表を用いて御本人様、御家族様の困っている事、不安なこと、要望について傾聴し職員間でも情報を共有し、安心して利用して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・御家族様の不安や思いを傾聴し、それらの点で安心していただけるように毎月の生活の様子を写真や文章にして情報を共有し、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・初期の段階から職員同士の情報の共有を図り、御本人様の必要としている支援を見極め柔軟な対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・御本人様と一緒に過ごすなかで喜怒哀楽を共にし、御本人様のこれまでの人生を大切に学びあえる関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・どんな些細なことでも御家族様と情報を共有し、喜怒哀楽を共にし、御本人様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・いつでも馴染みの方々が面会に来ていただけるようになっており、お友達との外出や通い慣れたお店、演劇場などに出かける機会を持って頂ける様に支援を行っている。	・利用者の友人が訪ねて来た時は、そのつど家族に面会了承を得て、利用者が会議室で昼食を一緒に食べるなどの支援をしている。 ・家族や友人との外出時には、近くの駅まで送迎支援をしている。友人との旅行の際に、利用者や友人が旅行先で困らないように必要なものを準備し、旅行中の注意事項を告げるなどの支援をした事例もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・日々変わっていく利用者様同士の関係を把握し、その時々に応じて一人ひとりが孤立することなく支えあえる様、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用契約が終了した後も、御家族の承諾を得てホームの様子をお伝えしたり近況のお手紙を頂いて相談や支援に努め、関係をたちきらない取組みに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・できる限り、一人ひとりの意思に添えるように支援を行っている。どうしても困難な場合は何故困難なのかを説明しながら、出来るだけ利用者様の意思に添えるようなサービスを提供している。	・職員は食事や入浴の機会に、毎日必ず利用者とフランクな会話を行って思いや意向の把握に努め、意向に添った個別ケアを心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・コミュニケーションの中から情報を把握し、記録に残し共有することで把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・申し送りや記録を活用し日頃からの状態の把握に努め毎月のカンファレンスにて情報の交換をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアマネージャーや担当の職員を中心に必要に応じて話し合いを行い、月に1度のカンファレンスでそれぞれの意見を出し合い現状に即した介護計画を作成している。	・入居時に家族の意向も反映した介護計画を作成し、その後短期目標は3か月、長期目標は6か月で見直している。見直しの際は、居室担当職員とケアマネージャーを中心に、ユニット会議で検討をし、家族への説明、同意も得ている。 ・利用者の意向や状況が変化した時は、家族の同意を得てそのつど介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々のケアの実践を個別に記入し、職員同士で伝達共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・急な面会、外出、外泊メニューの変更など柔軟なサービスの取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・御本人様の意向や必要に応じてボランティア、文化施設を活用し、豊かな暮らしへの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・御本人様や御家族の希望を大切にし、受診のサポートを行い月に2度の訪問診療を受けて頂いている。	・入居時に利用者・家族の意向を確認するが、現在は全員が事業所の協力医をかかりつけ医にしている。協力医は月2回往診し、週1回は連携の訪問看護師による健康チェックもある。 ・近くの眼科などへは通院支援をしているが、従来からの病院への通院は家族に付添をお願いしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週に1回の訪問日の際に、個々の利用者様の状態報告を行い、お互いの情報を交換し、疾患やケアに対してのアドバイスを頂き利用者様へのサービスに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・介護サマリーを通じて日頃の生活状況や入院に至った経過を踏まえ、早期退院に向けての話し合いを医療機関に届け医師・御家族、ケースワーカー・医師との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居相談の時から重度化された場合の終末期のあり方について説明を文章及び口頭で行い、同意を得ている。現在まで終末期、看取りケアに至ったケースはない。	・「看取りに関する指針」を整え、入居契約時に利用者・家族の同意を得ているが、これまでに重度化・終末期ケアの実施事例はない。 ・家族からは終末期ケアに対する要望の声もあるが、重度化・終末期ケアについては個別に慎重に検討をしていく。職員の研修についても改めて行う。	・重度化や終末期への支援に向けて、職員の知識・技術向上や精神的ケアのための研修を実施されることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変や事故発生時のマニュアルがあり、活用しているが定期的な訓練はしていない。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に夜間を想定した避難訓練を行っている。・災害時に備えての備蓄はおこなっている。	・昨年8月には消防署の協力で夜間想定避難訓練を実施した。その際、利用者も地震体験車による地震体験をし、年度内には地区出張所と連携して避難訓練を実施予定であるが、地域との防災協定にまでは至っていない。 ・食料、水の備蓄を行い、家具についても転倒防止の措置をしている。	・消防署等との連携により防災訓練を行っていますが、さらに地域との協力体制を築くために、地域との防災協定を締結されることを期待します。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・全ての職員が一人ひとりの人格を尊重し尊敬の気持ちを持った言葉遣いに心掛け、記録や個人情報の取り扱いにも注意した取り組みを行っている。	・事業所は“利用者の人権の尊重”を理念の冒頭に掲げ、職員は理念の縮小版を持ち、利用者を人生の大先輩と敬う気持ちで、声掛けでも無意識の精神的傷つけなどが起こらぬように、職員同士、お互いに注意し合いながら介護に当たっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・一人ひとりの願いや思いを尊重し日頃の会話の中で自然に表現できるように働きかけることで、自己決定が出来る様支援を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・できる限り、その日の一人ひとりのペースにあった過ごし方が出来る様に対応している。ドライブや散歩も利用者様の希望を伺い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・洗面や整髪・髭剃りは毎日の習慣となるように支援を行っている。また、月に1度の理美容にてご本人様の希望にそったパーマやカットができるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者様と一緒に食事の準備や食後の片付けをおこなっている。利用者様の希望をつのり外食に出かけ、気分を変えて食事を楽しむ機会を持っている。	・多様な行事食の他に、利用者参加での手作りケーキや、節分恵方巻作りをしている。日々、利用者と職員は一緒に談笑しながら食事を取り、食事後利用者は各自流し場に食器を片づけている。車や徒歩で行く近隣の料理屋さんでの外食も大好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・一日のバランスの取れた献立が栄養士により立てられており、食事の提供ができています。毎食ごとに摂取量を把握して、嗜好やバランスを確認し柔軟な対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアを職員の見守りのもと行っている。 ・訪問歯科により定期的に口腔ケアを受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・お一人おひとりの排泄パターンを把握するために排泄チェック表を用いてトイレでの排泄の声掛けを行い、成功や失敗の体験を重ねていくことで自立に向けての支援を行っている。	・職員は利用者一人ひとりの排泄パターンについて詳細な記録を残し、それに基づいて誘導を繰り返すことで失敗回数を減らすことに努めている。結果として、利用者が気持ちの良い生活時間をより長く体験でき、より快適な生活を得られることを目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日排泄チェック表を用いて排便の確認を行っている。また、水分・おやつを繊維の摂れる物に工夫したりと予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	・夜間入浴は行えていないが、それぞれの入浴の好みを把握した上で、入浴の心地良さを楽しんで頂けるように工夫をしている。	・入浴時を利用者と職員がフランクに話し合えるチャンスと捉え、重点を置いている。バスタブのお湯は、オーバーフローさせながら、絶えず清潔なお風呂を提供している。季節には菖蒲湯、柚子湯などを用意するが、時々入浴剤なども利用者の希望で使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・昼夜問わず居室内の温度をチェックをおこなっている。加湿器の設置により快適な環境を維持している。また、毎日の確認により、清潔な寝具・寝巻きを使用していただけるよう工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・利用者様それぞれの疾患や薬の目的、副作用、用法、用量の情報を全職員が把握しており、管理の仕方から服薬の確認までのマニュアルを作成しており、ダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日々の生活の中で利用者様のニーズを把握し、嗜好品の買い物や、お芝居などを見に出掛けたり、食事作り、家庭菜園、盆栽をされたり、一人ひとり柔軟な対応を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・体調や気分・希望により、戸外への外出を心掛けている。今までに体験をしたことがない、ナイター観戦に職員と出かけたり、お芝居のご招待など頂くなど、協力をいただいている。	・天気の良い日は毎日必ず近隣に散歩に出掛け、また、ユニット毎に車2台を利用し、月1回～2回、関内ホールの音楽会や江ノ島へのドライブなど遠出している。町内会のお祭にも職員同伴で出掛けたり、近隣のパターゴルフ場では利用者、職員が一緒になってゲームを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日常は事業所にてお金は管理しているが、買い物や外出の時はお金を所持して頂き、職員見守りのもと、使える様に支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・間違い電話のないように番号の確認は職員がおこない、電話や、手紙のやり取りが自由に出来るように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節の花を飾ったり、皆さんで作られた作品を掲示している。廊下など共有スペースには加湿器を設置し居心地良く過ごして頂けるように工夫をしている。	・南向きの明るい共用ルームは落ち着いた和室と食事や趣味の制作などが出来る洋室に分かれており、ソファやテーブルは利用者同士の関係に配慮して時々配置換えを行っている。壁には利用者と職員で制作した大きなカレンダーや作品などを貼り、落ち着いた安心できる雰囲気を創り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・和室があり、畳で胡坐をかいて新聞を読んだり、ソファに腰掛けテレビをみたり、気の合った利用者様同士で居室にて談話されたりと、思い思いに過ごして頂けるように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・住み慣れたご自身のお部屋をホームにて再現して頂ける様話し合いを重ね、居心地よく過ごして頂けるよう支援を行っている。	・居室に入所前の自宅の雰囲気を再現すべく、利用者、家族と相談してシーツ、カーテンを利用者の好みの色に統一したり、大きな仏壇を部屋に置いたりしている。また、部屋での趣味の制作を希望する利用者に対して素材調達などで支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・月に一度のカンファレンスでお一人おひとりのできる事、できないことの情報共有し、できないと諦めてしまうのではなく、どのようにしたらできるか、維持できるのかを話し合い支援している。		

事業所名	グループホーム本牧つばき園
ユニット名	はまなす

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・玄関や、各ユニットの廊下に理念を掲げており、朝の申し送りの時や、会議の前に職員は理念を唱和し、共有している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会に加入しており、縁日や防災訓練に参加している。また、近くの図書館を利用したり、散歩の途中でのご近所の方々との挨拶や会話を通じて繋がりを続けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・事業所や職員の状況に応じて運営推進会議や職員会議などで地域の方々に役立てることはないかを話し合い、取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・年間の運営推進会議の日程とテーマを決めており、テーマに沿った意見交換が出来やすい様に工夫し、サービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市町村の担当者様に運営推進会議の報告や入居者様の状況やお便りをお届けし協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・マニュアルがいつでも閲覧出来るようになっている。身体拘束を行わない取組みを、事業部全体として行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	・事業部の研修プログラムにも組み入れており、研修を行っている。・マニュアルはいつでも見ることが出来るように閲覧しており、職員会議でも見過ごされている虐待はないか話し合いを重ねている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見制度を利用されている利用者様もおり、事業部での研修や、外部の研修に参加し、報告会をおこない制度についての理解をふかめている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・重要事項説明書や契約書は利用者ご家族様と読み合わせを行い不安や疑問点について十分な説明をし理解いただいたうえで署名・捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱を設置し、面会時や運営推進会議を通じて意見を出しやすい状況を設けている。出された意見はどうか対応したのかを次の推進会議で報告し反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日中業務の中で、リーダーや管理者が個別に意見を尋ねることもあり、職員会議にて意見や提案について、話し合い反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・毎年決められた月に昇給を行っている、また個々の実績により契約社員昇格制度、年末、年始の特別手当などがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・OJTにより1人ひとりの力量に合った職員の研修や指導を介護事業部全体として研修指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・他のグループホームとの交換実習を行ったり介護事業部の4つの施設との勉強会を含めてサービスの向上を目指している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居相談の段階から何度も足を運んで頂き困っている事、不安な事を傾聴し情報を共有し安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族様の不安な思いを敬重し、利用者さまの様子やホームの様子を毎月のお便りにして、家族、職員の情報を共有し関係を築いていくよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・職員同士でも情報を共有し柔軟な対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人様と生活を共にするなかで喜怒哀楽を分かち合い学びあえる関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご本人様と、ご家族様の関係を第一に考えサポート的な立場で共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・いつでも馴染みの人が面会に来て頂けるようになっており、お友達との外出や通いなれたお店、演劇場などに出掛け関係が途切れる事のない様に支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士の関係を把握し一人ひとりが孤立することなく支えあえるよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用契約が終了した後もご家族様の承諾を得てホームの様子をお伝えしたり、近況をお手紙で頂いて相談や支援に努められた関係を断ち切らない取組みに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・出来る限り一人ひとりの意思に添えるように支援を行っているが、困難な場合は何故困難なのかを納得して頂きなるべく思いや意向に近づけたサービスの提供を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・サービス内容をコミュニケーションの中から把握し記録に残し情報を共有し報告、連絡、相談する事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・申し送りや記録を活用し日頃からの状態の観察に努め一人ひとりの現状の把握に努めている。また毎月のカンファレンスにて情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・担当制をとり担当職員を中心に利用者の思いや意向の把握に努めユニット会議で話し合いプランを立てている。内容をご家族に説明し同意を得て署名と捺印を頂いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別記録にて実践結果、気づきを記入し、朝、夕の申し送りにて情報を共有し日々の介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・急な面会、外出、外泊、メニューの変更などの柔軟なサービスの取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・本人の意向や必要に応じたボランティア、消防、文化施設を活用し豊かな暮らしの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居時に受診を希望する医療機関を確認している家族の協力も得て受診対応して頂いている協力医療機関の医師による診療が月に二度訪問看護師による健康チェックが週1回受けられるようになっている		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・週1回の訪問看護で看護師と利用者様との信頼関係が出来ており、職員と共に情報を共有する事で利用者様のサービスに繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・介護サマリーを通じて日頃の生活状況や入院に至った経過を即日、医療機関に届け早期退院に向けて、ご家族・医師との相談をその都度行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・『看取りに関する指針』を整え、契約時説明し署名、捺印の上交付している。現在まで終末期看取りを行うまでに至ったケースはない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時の対応マニュアルがある。職員の勉強会や看護師による応急手当の方法などを学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・定期的に夜勤を想定した場合などの避難訓練を行っている。災害に備え3日間の備蓄品は備えている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応をしないようユニット会議にて周知徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・一人ひとりの願いや思いを尊重しコミュニケーションの自己表現が出来る様に働きかけ自己決定が出来る様支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・その日、その日のお一人おひとりにあった過ごし方が出来る様に希望を伺い話し合っってドライブや、散歩の場所を決めるようにし、個々のペースにあった支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・日々の整髪・髭剃りだけでなく、月に1度の理美容にてご本人の希望を尊重したパーマやカットを行い、お化粧品などもされている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者様と一緒に食事の準備や後片付けをおこなっている。時には希望を募り、外食に出かけたり、流しそうめんや、B・B・Qなどして食事を楽しんでいただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・委託業者の栄養士による献立がたてられており毎食ごとにバランスの取れた食事の提供ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の口腔ケアを職員の見守りのもと行い、訪問歯科により定期的に口腔ケアを受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェック表を用いて排泄のパターンを把握し、声掛けや見守りにて、トイレにて排泄が出来る様支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日排泄チェック表を用いて排便の確認を行うとともに、水分やおやつを繊維の摂れる物に工夫したりと予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・菖蒲・ゆず・など季節を感じられる物を使ったり、好みの入浴剤を入れたりと個々に応じて入浴の支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・眠たい時に寝て頂ける様にしている。巡視の際に居室の温度や湿度を調整し、寝具の乱れを直している。また和室で足を伸ばしたり、ソファで休息がとれるようになっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・お一人おひとりの薬の情報・薬の管理から服薬の管理までのマニュアルがあり実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・日々の生活の中で利用者様の生活歴や嗜好品・趣味など情報を収集し、個々に適した役割があったり、気分転換ができる様に支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・ご家族様・友人のかた・地域の方々の協力を得てご本人様の希望に添える外出の支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日常は事務所にてお預かりし、外出の際は会計の時に職員見守りのもと使用していただけるように支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・間違い電話のないように番号の確認は職員が行うが手紙などのやりとりは自由に出来るように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・共有スペースには花を飾ったり皆様の作品を掲示している。・温度や換気にも十分気をつけ、加湿器も設置している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・居室にて過ごされたり、和室のソファーを使ったり足を伸ばしたりして会話ができたり思いおもいの過ごし方ができている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・住み慣れた家の再現をしていただけるように使い慣れた物や馴染みの物を活かし居心地よく過ごしていただけるように工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者様の目線で理解していただけるように、居室・トイレ・食堂・浴室にわかりやすいように、絵や字を使って表示し工夫をしている。		

目標達成計画

事業所名

本牧つばき園

作成日

平成24年4月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	急変時や事故発生時の、対応のマニュアルは作成してあり活用しているが、定期的な訓練は行えていない。	急変時や、事故発生時の対応マニュアルを活用して、定期的に訓練を行っていく。	管理者・ユニットリーダーを中心に、夜間の急変や、事故発生時を想定しての訓練を、月に1度のユニット会議を利用してスタッフ一人一人が交代で、実践に役立てるように訓練を行っていく。	1年
2	35	災害時、利用者様が安全に避難できる方法を把握しきれておらず、地域との協力体制も築けていない。	災害時、利用者様が安全に避難できる方法を身につけ、地域の皆様にも協力していただけるように協力体制を築いていく。	運営推進会議を活用し、消防署、町内会長様、近所の方々に避難の方法を助言して頂き、実際にホームの訓練にも参加していただけるよう働きかけを行っていく。	1年
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。